

## 社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2022. 7  
No.347

### 脱皮できないヘビは死ぬ

大和ハウス人はこう考えてこう進もう

MCC社長 前田昌秋氏より

— 販売なくして企業なし —

「販売」ということは、単に営業社員だけの仕事ではない。

社員みんなで一致協力して売らなければならない。(全員営業たれ)

— 今日の企業の繁栄は明日の没落 —

燃料革命と言われた燃料の変、石炭と石油、天然ガスなどの気体燃料から、太陽へと変化する時代、新しい時代に新しい方向に進まなければいけないのに、古いものを持っていては、企業の繁栄はおぼつかない。その古いものを突き破り、新しい方向に進まなくてはならない。

新しい考えをもつて「道なき道を付けて進んで行く」。変化激しい世界に生きるためには、過去の経験に頼りすぎてはならないことを常に認識して欲しい。

— 全員営業たるべき心構え —

1. 今の自分の課は、どれだけの売上が上がっているか？
2. 利益率(原価率)はどうか？
3. 製品の進捗状態はどうか？
4. 毎月(毎日)の売上はどれぐらいあるか？
5. 支払いすべきお金はどれだけか？
6. どの現場には誰がついているか？
7. 営業関係では「どの方向に誰が、どういう手段で、どの程度くいこみに成功しているか？」
8. 相手企業の主要な人物は誰か？その契約の可能性はどのくらいか？
9. 部下の給料、家族の状況は？

一流の会社(大和ハウス)の考え方(営業は厳しいですが、それでも常にやりとげてみえます。現在、営業の指導をMCCの前田社長より指導を受けていますが、このような大和

ハウス魂がベースにあることを認識しましょう。

『脱皮しないヘビは死ぬ』

### 利他工房の役割

先月号で『イナテック ソーシャルデザイン プロジェクト』の企画の説明をさせていただきました。そのプロジェクトの事務局としての役割を果たしてくれているのが利他工房(加藤さん・堀井さん)なのです。

その利他工房の岡田・稲波先生の指導の中で、イナテックグループをどんな会社にならなければならないかの議論の一端を紹介します。

「社員の「やりたい」を拾い上げるのも利他工房の役割。

自主性を持ってやりたいことを声に出している人をつぶしてはならない。声が上がるとうになつてきたのも立派な変化。

これを機に「言ってもムダ」という空気をなくしていきたい。

先々は会社(イナテック)として、そういった声拾える「仕組み」になるといい。

イナテックグループから新規事業が生まれ  
ていく会社にするためには

1. 土壌(体制・教育・地力)
2. 種(アイデアや想い)
3. 空気(言い出しやすい雰囲気・やりやすい社風)

この3つが必要で、いきなり種だけを落とす  
ても芽吹かないものである。「空気」の醸成の  
ために、考えて、仕組みとして実装していく  
必要がある。1. 土壌 2. 種は、今取り組  
みつつあるので、3. 空気も遠からず整備して  
いかなければならない。”

以上のようなことを利他工房・総務チーム  
として只今議論を重ね推進していますので、  
皆さんの御理解と御協力をお願い致しま  
す。

### 菜根譚後集

七八

樹木至歸根、而後知華萼枝葉之徒榮。人事至蓋棺、而後知子女玉帛之無益。

草木も(秋になって落葉して)、根ばかりになってみて、花や枝葉が一時的な繁栄であったこと  
がわかる。(同様に)、人事も、棺おけのふたをする時になってみて、子どもや財宝がなんの役に  
も立たないことがわかる。



## 社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2022. 8  
No.348

### イナテック社員の皆さんへ

クリアコミュニケーションができていない。

「クリアコミュニケーション」とは、『事実に見合った適切な(文書)表現のこと』。つまり、可能な限り具体的な数値で伝達することです。(社長メッセージNo. 280参照)

最近の皆さんの会話や議論を聞いていると次のような「言葉」がよく出てきます。

- ・自分なりのレベルを上げます。
- ・自分達なりには自己満足でスタートしました。
- ・ちゃんと確認しました。
- ・ちゃんとした状態にします。
- ・きちつと、しっかりやります。
- ・気づきを増やします。

これは7月12日に実施した工務課の2S点検時に出てきた「言葉」です。この工務課スタッフの皆さんの例は、今回たまたま書かせて頂いていただけで、イナテック全社で感じることです。

つまり、「具体的な数値」が「一つもない」ということです。「いつまでに」「誰が」「何を」「どれだけ」「どのように」やるのか無責任な状態と言つていくくらいです。

ビジネス(仕事)としての会話の基本であり、主語・述語を明確にしないと何を言っているのかさっぱりわかりません。

最近では、私が意識的に聞き直していることを気づいてみえる方もいると思います(決して耳が遠い訳でもなく、補聴器も装着しています(笑))。

### 『数値化の鬼』安藤 広 大 著

この「クリアコミュニケーション」で私が悩んでいた時に出会った本です。

――(以下引用)

「言葉は過剰」

「数字は不足」の世の中

―人は、自分にとつて都合が悪いときに、曖昧な言い方をします。―

やましいことを隠すときに、私たちは、「たください」「ちよつとだけ」「かなり」という言葉を使いますし、既得権益を守るときにも感情的な言葉を多用します。

その場をうまくごまかすために「言葉」が進化したのかもしれないと思うほどです。

―世の中には「数字」が圧倒的に足りていません。―

それは、自分からデータを集めたり、数字の意味を分析したり、感情を横に置いて冷静に判断したりする必要があるからです。

つまり、「数値化」はめんどうくさい。だから、世の名は、「言葉」が溢れ返り、「数字」が足りない状況になっているのです。

もつと「数字」を用いて論理的に考え、判断する人が増えれば、感情的な炎上や足の引っ張り合いは減ります。

「データのない不毛な会議」

「好き嫌いや空気の読み合い」

「認識の違いによる仕事上のエラー」

「今月は営業訪問をすごく頑張りました」  
そう言っていたのに、実際には1日2件しか  
回っていないようなときがあります。「すごく  
頑張る」という言葉だけでは、お互いの認識  
にズレが生じます。

その場合、何件回ったのか、数字も一緒にマ  
ネジャーに報告させるなど、数値化するため  
のルールを決めておく必要があります。

「数字のことはわかりうるさいな・・・」と思わ  
れることを恐れ、確認を怠る管理職は、管理  
職失格です。

この「言葉による言い逃れ」がクセになってし  
まったプレーヤーは、そこで成長が止まりま  
す。

イナテックも注意しないとこのような状態  
に陥ります。

まだ間に合います。もう一度アイシンAW  
(現 アイシン)様に教えていただいた「クリアコ  
ミュニケーション」を実行しましょう。

### 菜根譚後集

七九

眞空不空、執相非眞、破相亦非眞。問、世尊如何發付。在世出世。狗欲是苦、絶欲亦是苦。聽吾  
齊善自修持。

諸法の実相である眞空は、単なる空無ではない。現象に執着して、それを唯一の実在であると  
するのも眞実ではなく、反対に現象を破邪して、それは全くの虚妄であるとするのも眞実ではな  
い。しからは釈尊は、これについてどのように述べられているか。「世間にあつて出世間であれ」  
と。物欲に捕らわれるのも苦であり、さればとて物欲を断ち切るのも苦である。そこが我々各自  
の修養しだいである点である。



## 社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2022. 9  
No.349

### イナテック中長期計画の見直し

イナテックの来年度の方針作成と合わせ、中長期計画の見直しをする時期でもありません。そんな中で楠木建著の『絶対悲観主義』を読んで感じたことや、抜粋も含めて中長期の考え方の一助として記してみました。

組織を悲観し、チームを楽観する

『絶対悲観主義』楠木建 著より

「うちの会社は駄目だ」とか「組織の仕組みがなってない」とか、やたらと組織についての愚痴を言う人がいます。

どこの会社もそういうもので、「うちの組織や仕組みは最高です！」と言う人はあまりい

ません。会社が悪いのであれば、転職すればいいだけです。

仕事の現場では、日々の仕事をするチームが動いています。会社全体の組織を云々する前に自分たちのチームを良くするのが先決です。組織全体のあり方はすぐにはどうにもなりません。それでも仕事の現場で動く自分のチームについては、今すぐに変えられることが多々あるはずですよ。

現状に問題を感じ、変革を起こしたければ、問題を組織の構造や制度にすり替えないことが大切です。

新しい制度設計を待たず、まず自ら動く。とりあえずは、自分の影響の及ぶチームに新しい動きを起こし、明らかな成功例をつくる。組織の他の人々に成果が見えれば、賛同する人が出てきます。

イナテックも、ややもすると組織の話や他人事のような議論をしているところが散見されます。

「まず自ら動く」  
これで行こうではありませんか。

中長期計画策定にあたり 痺れる名言

アンドリュース・カーネギー

「笑い声のないところに成功はない」

ヘミングウェイ

「心の底からやりたいと思わないなら、やめておけ」

ゴッホ

「美しい景色を探すな。景色の中に美しいものを見つけるんだ」

織田信長

「攻撃を一点に集約せよ。無駄なことはするな」

ヘンリーフォード

「自分で薪を割れ。二重に温まる」

ドラッカー

「元々やらなくてもいいことを効率良く行うことほど、無駄なことはない」

## ネット社会にどう対応するのか

私自身はゲームやスマホなど最小限しか使わないのですが、この爆発的に広まったSNSやYouTubeなど、良い効果と良くない影響や危険性が自分の中では整理できていませんでした。偶然本屋で見つけたのが『デジタル依存症の罠』精神科医 香山リカ著 でした。私の心象に残った一部を紹介します。

### 自己有用感の功罪

『デジタル依存症の罠』香山リカ 著より

いま教育現場では、自分は誰かあるいは社会の役に立っていることで培われている自己肯定感を「自己有用感」と呼び、それを育むことに力が入れられている。

「自分さえよければそれでいい」という身勝手な自己正当化ではなくて、他人から認められてはじめて「これでいいんだ」と自分を肯定するというのは大切なこと。

ネットに触れてその情報空間の広大さに触れた子どもたちは、社会や世界、あるいはまわりの人たちに有用と思われている人たちの多さを知り、めまいにも似た感覚を味わう。「ぼくなんか、親が期待する高校にも行けそうにないし、学校の部活でもいい成績を上げられないし、誰の役にも立っていない。誰にとつてもいらぬ人間なんです」

「自分が好きでやってるなら、それでいいじゃない」と言葉をかけると、「毎日、ある人の動画を見ているんですけど、その人は何十万人もの人を楽しいネタを提供して喜ばれてる。それなのにぼくは、身近な親や先生を喜ばせることもできないんです」

「こどもも、比較対象が莫大に増えたことが、この子どもに「自分なんて取るに足らない存在」という意識を植えつけているのだ。

ネットの世界で傷つけないために

ICT抜きにはこれからの世の中、生活も教育も成り立たないのは事実だ。「ネットは危険だから、子どもには触れさせないようにし

よう」というのは、もはやナンセンスでしかない。

情報化社会の中で子どもは知らないあいだに自分を誰かと比べて自己愛の傷つきを感じている。その一方で「このままの自分じゃない。もっと夢を持とう。理想を高くしよう」と万能感を煽られてはいないか。

子どもはやはり、目の前の大人である教師に「よくがんばったね」「この前の試合、すごい活躍だったじゃない」「この絵、うまく描けてるね」「いつも友達にやさしい言葉をかけてあげてくれてありがとう」などとほめられるのを待っている。

大きな目標を達成していなくても、小さな日々のがんばりに気づいてもらえて、「よくやってるじゃない」と言われることが、広大なネットの世界でうつすらと傷つけられかけている自己愛をやさしく修復してくれるだろう。

※ICT(情報通信技術) || Information and Communication Technology

このように考えると、イナテックの理念である「フェイスとフェイス」「ハートとハート」は大変重要で有効な手段であることが分かります。

ネットの世界だけでなく、今のイナテックの社内でも同じことが言えます。

私も現在の厳しい経営状況が続く中、社員の皆さんの日々の努力、頑張りに対しての労いと感謝の気持ち、励ましの言葉をおろそかにしていることに気づき反省しています。

皆さんも胸を張って、自信を持って、気持ちよく前向きに頑張りましょう。

### 菜根譚後集

八〇

烈士讓千乘、貪夫爭一文。人品星淵也、而好名、不殊好利。天子管家國、乞人號羹飧。位分霄壤也、而焦思、何異焦聲。

義烈の士は千乗の国をも辞退するが、強欲な男は鏹一文をも求め争う。両者の人からは天上の星と地下のふちほどのへだたりはあるが、しかし前者は名声を好み、後者は利を好むものであって、好み求める点については少しも相違がない。また、天子は国家を治めるが、乞食は食べ物をねだって叫ぶ。両者の地位は青空と地上ほどのへだたりはあるが、しかし前者は天下万民のために心を苦しめ、後者は自分一人のために声を枯らすものであって、思い悩む点については少しも相違がない。

- 3 -  
